

1. 管材

管材の調査対象は、下水道工事で使用された既成の管材のうち処理場・ポンプ場等のダクト、設備配管等は除いたものである。また、三面張水路、現場打ちのボックスカルバート等は除外した。

平成21年度に使用された管材は、総延長7,858kmで、事業費の減少に伴い、前年度比約4.2%減少している。口径別には、口径450mm以下の管材の発注延長は7,507kmで、前延長に対するシェアは約95.5%だった。

<管種別>

管種	21年度延長(km)	前年度比(%)
塩化ビニル	6,740	98.6
ヒューム管	130	93.1
陶管	69	65.6
推進管	547	90.4
セグメント	56	83.2
強化プラスチック	24	82.4
鋼管	8	78.5
鋳鉄管	101	92.3
既成ボックスカルバート	51	91.5
その他	131	81.6
合計	7,858 (8,120)	96.8

※()は前年度

<口径別>

口径	21年度延長(km)	前年度比(%)
200mm以下	6,860	97.9
250～300mm	453	97.7
350～450mm	194	91.8
500～900mm	168	76.0
1,000～1,850mm	126	89.5
2,000～2,800mm	38	104.5
3,000～4,800mm	18	46.3
5,000mm以上	2	36.2
合計	7,858 (8,120)	96.8

※()は前年度

2. 資材

資材としての調査対象は、コンクリート、鉄、既成杭等で、構造物に使用されるものだけを調査対象としている。

したがって、既成の管材に使用されているコンクリート等や仮設として損料計上されているものは含まれていない。

資材	21年度施工量	前年度比(%)
コンクリート(千m ³)	852	79.3
鉄(千t)	135	89.1
ベントナイト(千kg)	3,995	64.3
既成杭(km)	188	55.6
うちACパイル	120	47.4
鋼管パイル	59	123.1
PCパイル	0	1.9
RCパイル	0	0.0
その他	9	28.7

3. 特殊工法

平成21年度の管きょ特殊工法の発注延長は、約588km(前年度比約79.4%)であった。

特殊工法	21年度延長(km)	前年度比(%)
推進工法	532	87.4
うち小口径	437	89.2
中大口径	95	80.1
シールド工法	52	78.2
山岳トンネル	0	-
その他	4	5.4
合計	588 (741)	79.4

※()は前年度

4. 更正工法

更正工法の調査対象は、下水道工事で使用された反転工法、形成工法、製管工法を対象としている。

平成21年度に使用された更正工法の総延長は、約343kmである。

更正工法	21年度延長(km)	前年度比(%)
反転工法	95	-
形成工法	188	-
製管工法	60	-
合計	343	-

5. 主要機器

処理場・ポンプ場の機械・電気設備等の発注台数は、従来から年度間の変動が大きい状況にある。主な機器の発注状況は次のとおりであった。

主要機器	21年度施工量	前年度比(%)
主ポンプ	1,046	96.1
ゲート	886	102.0
スクリーン	300	85.2
送風機	99	86.1
脱水機	94	102.2
焼却炉	6	200.0
濃縮機	65	21.0